

会 議 録

(文責：森山)

会議の 名称	第 1 回 那珂川市都市計画マスタープラン策定委員会		
開催日時	令和元年 10 月 3 日 (木) 19:00～20:45	開催場所	第 2 別館 2 階 大会議室
出席者	<p>1. 委員 第 1 号委員：森山委員 第 2 号委員：村山委員、大橋委員、宮本委員、比嘉委員、工藤委員 第 3 号委員：田上委員、成田委員、三谷委員、阿河委員、結城委員 第 4 号委員：上野委員、木村委員 ※欠 席：野上委員 (第 1 号委員)、築地委員 (第 2 号委員)、 木藤委員 (第 3 号委員)</p> <p>2. 事務局 武末市長 (公務のため途中退出) 桐谷都市計画課長、鶴田土地活用・計画担当係長、森山</p> <p>3. その他 (株) 玉野総合コンサルタント 2 名</p>		
配布資料	<p>次第 席次表 資料 1 那珂川市都市計画マスタープラン設置条例 資料 2 委員名簿 資料 3 那珂川市都市計画マスタープランの策定について 資料 4 那珂川市都市計画マスタープラン策定スケジュール</p>		
公開区分	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">開示</div> ・ 一部開示 ・ 非開示		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 開会 事務局：第 1 回那珂川市都市計画マスタープラン策定委員会を開会する。</p> <p>2. 委嘱状交付 <武末市長より委嘱状を交付> <事務局より、資料 1 について説明></p> <p>3. 委員紹介 <各委員による自己紹介></p> <p>4. 会長・副会長選出 事務局：那珂川市都市計画マスタープラン策定委員会設置条例第 4 条の規定により、本委員会では会長及び副会長を置くこととなっている。会長は、会務を総理し、委員会を代表すること、副会長は、会長を補佐し、会長に事故があると</p>			

き、又は会長が欠けたときは、その職務を代理することが定められている。会長及び副会長は、委員の互選により定めることとされているが、立候補や推薦がなければ、事務局から提案したいと考えるが、どうか。

一 同 : 異議なし。

事務局 : では、田上委員に会長、成田委員に副会長にご就任いただくことを提案する。

一 同 : 異議なし。

事務局 : 会長は田上委員、副会長は成田委員に決定した。以降の進行は会長にお願いする。

5. 議事

会長 : 今回は初回の委員会であるため、都市計画マスタープランとはなにかといった基本的な知識を共有することからはじめることになると思う。まずは議題について、事務局から説明を。

<事務局より、資料3、資料4について説明>

会長 : 都市計画マスタープランは、今後10年間の都市づくりの方針を決める、重要な計画である。なにか質問や意見等はあるか。

委員 : 資料3の13ページを見ると、市南部のほうの高齢化率が高くなっており、今後の人口の減り方も激しいと思われる。一方で、道路や農業用水路などの基盤の整備は、比較的高齢化率の低い市北部で優先的に行われているように思う。市南部の基盤整備を、余力があるうちにすすめていくほうがよいと思うが。

事務局 : 農地の整備は、農業担当部署が計画を立てて行っているので、担当部署と連携していきたい。

委員 : 計画を立てるときに、地権者との協議はしていると思うが、耕作者との協議が行われないので、疑問に思っている。

事務局 : 農業担当部署をはじめ、各課と連携して情報を共有しながら計画を立案する。具体的には、庁内の検討会議や各課へのヒアリングを行う。

会長 : 前回の計画を策定した際には、都市のコンパクト化を厳しく進めて

いくべきだとして、バス路線の縮小や居住の急激な誘導を主張する意見があった。しかし、議論のなかで、急激な縮小ではなく、適正な開発と保全を行っていくべきだということになり、農業を振興していくという記述を盛り込んだという経緯がある。

委員：現行のマスタープランのなかで開発を進めていくとされている区域が、現在自分が耕作しているところと重なっているのに、計画が決まるまでにも知らされなかった。農業用機械の購入など、ある程度計画を立てて投資しているので、耕作者に計画が知らされないのはたいへん困る。田畑を所有している地権者が高齢化するにつれ、土地を借りた営農者が耕作を担っているケースが増えてきている。市役所では地権者から耕作者に話をするだろうと思っているのかもしれないが、実際は話が来ない。部署間で情報を共有すれば、だれが耕作しているかはすぐにわかると思うので、計画の策定段階で話をしてほしい。

会長：重要な意見である。どのように計画に盛り込むか、今後検討していく。

委員：立地適正化計画のほうでもコンパクトシティをうたっているが、近隣の春日市や大野城市に比べると、那珂川市はすでにコンパクトな都市構造になっているように見える。今後、市街化調整区域を開発し、市街化区域を拡大する予定はあるのか。

事務局：現行のマスタープランに記載しているとおりに、新市街地の創出を検討している地区がある。その地区が、先ほど委員が言われたように、現に農業をしている区域と重なっている場合がある。耕作者になかなか話がいけないという現状も認識している。初めに地権者の意向を確認してから耕作者に話をするため、耕作者に話をもっていくのが遅くなってしまうという事情がある。耕作者がいないと自然環境は守れないということもあり、次期マスタープランでは、どのような形になるかわからないが、農業の担い手の尊重についても盛り込まなければならないと考えている。

委員：立地適正化計画を今年度末までに策定することによって、都市計画マスタープランに先行する形になっている。立地適正化計画は、都市計画マスタープランを実現化するツールとされている。上位計画である都市計画マスタープランのほうに先に策定されるのが通常ではないかと思う。

事務局：立地適正化計画は、都市計画マスタープランの一部であると考えている。都市計画マスタープランのうち、立地の適正化に関する部分を先に定めた形になる。

委員：都市計画マスタープランができないと、立地適正化計画も検討できないのではないかと。

事務局：立地適正化計画で、都市計画マスタープランの一部を先に定めるといってとらえているので、特に問題はない。

委員：一部を先に定めたという言い方には違和感がある。農地保全と都市化のすみわけの件についても、先に都市計画マスタープランで検討するのが本来のあり方ではないかと。

委員：そのときどきの「落としどころ」を意識して作っているもので、中途半端な計画がたくさんできることになる。先に目標を決めておくべき。

事務局：都市化と農業振興のすみわけについて、いままではっきりした方針がなかった。次期マスタープランでは検討したい。

委員：資料3の12ページに、人口推計が2パターン示されているが、次期マスタープラン策定にあたって、今後の人口規模についても議論するということか。

事務局：人口推計や目指す人口規模については、市の人口ビジョンで検討を行う。人口ビジョンは今年度改訂されるため、改訂後の内容を次期マスタープランにも反映することになる。

委員：資料で示されている推計よりも、もっと厳しく人口が減少した場合のことは考えないのか。ここ数年の人口増加は、転入者に対する補助金のおかげという印象が強い。補助金がなくなったら、人口が減っていく一方であると思う。推計は外れることも多いし、最も厳しい状態を想定して計画を立てたほうがよいのではないかと。

会長：高齢化率の全国平均が約27%であることと比較すると、那珂川市が激しく高齢化しているとは言えない。妥当な推計がどれかということは非常に難しい話題だが、いま行われている施策をすべて考慮したうえで正確な人口予測を行うことは困難なので、公的な機関が公表している推計を一つの土台にして検討していくということである。

委員：新しく建設されているマンションは賃貸が多く、居住者も若い人が多いので、補助金などのメリットがなくなればすぐに出て行ってしまふ。そうい

う状況もあって、より厳しい人口減少も予測して計画を立てるべきではないかと言っている。

委員：市のハード整備に計画性がないと感じている。例えば、中ノ島公園をみると、立派な公園があってホテルが来るよい環境があるのに、駐車場が足りなくて近隣の住民が迷惑している。また、新しい公園を作っても、遊具が充実していない。来訪者を増やしたい、大きな事業所を呼びたいといわれるが、そのための整備が計画的に行われていない。都市計画マスタープランのなかで、人が集まる自治体にするために、今後10年間でどのような整備をしていくか、計画を立てなければならないと思う。

会長：先ほど話題に上がった、都市計画マスタープランと立地適正化計画との整合性や策定の順序についてだが、たしかに立地適正化計画は都市計画マスタープランの後に策定されるのが理想的な形である。今回は、事業の進捗状況なども考えてこの順序になった。都市計画マスタープランの策定にあたっては、立地適正化計画との整合はしっかり行わなければならない。

委員：市南部に企業を誘致すれば、税収増にもつながるので、積極的に行っていくべきだと思う。

会長：そうした方針についても、都市計画マスタープラン策定にあたって検討し、必要なら計画として記載しておくべきである。

委員：河川拡幅による用地買収をきっかけに、企業が市外に流出してしまったのはもったいなかったと思う。市の中途半端な姿勢を表していると思った。

委員：実現性のある計画にするためには、市や県の財政計画との整合性が不可欠だと思う。

事務局：財政上確実にできることだけを記載するものではないと認識しているが、当然、検討にあたっては財政事情も考慮する必要がある。

委員：市内に似たような施設がたくさんあり、無駄な整備費や維持費がかけられていると感じる。例えば、こども館と児童館、五ヶ山クロスとグリーンピアなかがわなどは同じ機能を持つ施設であり、重複して維持する必要はないと思う。中途半端な整備になっている。

事務局：財政事情だけを意識すると中途半端な計画しかできないので、委員の皆さんの意見を聞きながら、力を入れる部分をはっきりさせる必要があると感

じている。

会 長 :大きな考え方や方針をしっかりと検討してマスタープランに盛り込んでいくことが大事である。個別の土地について議論する場ではないことは認識しておきたい。

委 員 :以前関わった福島県のある地域では、30年先の長期的な目標を定めてから、逆算して中期・短期の目標を定めている。都市計画マスタープランは10年単位の計画であるが、今後その地域がどうなっていくのか、地域で生活している人にとってわかりやすい形で示していくことが必要だと思う。

委 員 :スライド15ページに示されている、コンパクト+ネットワークの都市構造図の意味を明確に説明してほしい。

事 務 局 :市北部の市街地には都市機能がすでに集積している。市南部に居住している人も多くが市北部の都市機能を利用しているため、今後も市北部における都市機能の集積を維持していく。とくに、濃いピンク色で着色された円内を「都市機能誘導区域」として、都市機能を集積させていく。

また、北部市街地全体を「居住誘導区域」として、居住を誘導していく。むりに市北部に人口を誘導するのではなく、市南部の既存集落は維持しつつ、緩やかに居住を誘導することを目指しているが、利便施設についてはアクセスしやすい拠点に集積して、便利に暮らせる都市構造を実現しようとしている。

委 員 :ネットワークについては、市北部の都市機能誘導区域内を結ぶというイメージでよいか。

事 務 局 :市南部に住んでいる人が、市北部の都市機能にアクセスするための公共交通網を今後も維持していくことを考えている。

委 員 :市南部の人口が減少し、バス運転手が不足するなかで、どうやって公共交通網を維持していくのか。

事 務 局 :市南部はバス利用者数が少ないため、デマンド交通を導入するなど、地域の状況にあわせて交通体系を見直しているところである。

委 員 :市役所が人材を雇うなどして運転手を確保すれば、費用が抑えられるのではないかと。車両は補助金で購入できると思う。

いまのバスを中心とした公共交通体系を維持していくのは現実的ではないと思う。

会 長 : 計画検討の後半では、地域別構想の検討を行う。地域別に意見を聞いていくと、いろいろな主張が出てくるので、取捨選択をしなければならない。公共交通路線の維持についても同じである。

委 員 : 山田交差点付近にバスの中継拠点を作る話があるが、南畑に人を呼び込まないといけないのに、中途半端な位置ではないか。

委 員 : 現人橋より南の路線は、収益的に成り立たない路線であると認識している。現在は、市の補助金で赤字分を補填して、かわせみバスを運行している。当初、市南部の西鉄バス路線減少を補うためにかわせみバスの運行を開始したが、直近の利用者アンケートをみると、市北部の地域、例えば片縄地域から博多南駅まで行くための路線を増やしてほしいという意見が多い。西鉄バスもあるが、博多南線が開通する前からの路線しかないので、博多南駅をよく利用する人は不便だと感じているようである。そのようなニーズをかわせみバスがカバーしている現状がある。しかし、市北部の運行本数を増やすと、市南部で運行できる本数が減ってしまう。

すべての要望に応えていくことは不可能なので、どこかで取捨選択をしていく必要があると感じる。

委 員 : 区長会でもよくバス路線に関する話が出るが、片縄に住んでいる人のなかでも、市北部よりも市南部の路線を優先するべきだと言っている人もいる。

委 員 : 市の補助金で運行しているため、運行本数を増やすほど税金を多くつぎ込んでいることになる。

委 員 : 採算が合わないのであれば、かわせみバスとは別に、市が運営する乗合タクシーのようなものを検討するなど、工夫が必要だと思う。

委 員 : 大規模商業施設の計画や、総合運動公園周辺の道路の計画がはっきりしない。ほかにも、特産品づくりや地産地消促進など、中途半端になっていることがたくさんある。

また、いくつかの委員会に出席してきたが、ゼロからの検討ではなく、できたものに賛成するかたちになっているので、あまり意味がないと思う。

会 長 : 委員のみなさんが納得する計画をつくりたいと思う。少しでも多くの方が納得する計画を作るため、今後も議論を重ねていきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。

6. その他

- ・次回委員会は11月12日（火）19時～

7. 閉会

事務局：第1回那珂川市都市計画マスタープラン策定委員会を閉会する。

（終了）